

新報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐の島町港塩口24
電話2-9772

知夫村の教育活動

知夫村教育委員会が取り組んでいる教育活動の様子を紹介いたします。

【保小中一貫教育フォーラム】

知夫村では、毎年一回、教育フォーラムを開催しています。『保小中一貫教育を支える会』（地域・保護者みんなで知夫村の保小中一貫教育を支え、知夫の子供たちの健全育成、そして特色ある知夫小中学校づくりを応援していく）ことを目的とした組織の中で、「小中一貫校開校に向けて、情報提供や保護者・地域の声を拾うことが必要ではないか」という提案がなされ実現しました。第一回は「いよいよ始まる保小中一貫教育」と題して、平成二十六年十一月に開催されました。以降、これを重ね、これまでに五回を数えます。

保護者、地域住民が集い、知夫の子供たちの今と未来について考え、未来への思いや願いを共有する場として定着してきました。

五回目となる昨年度は、折しも、保育所保育指針が改定されたことに加え、村の保育所が移転し新しくなるというところで、講師として、幼児教育センターから指導主事を招き、「幼児教育の今」と題して、保育所を取り巻く状況の変化や小学校との連携について話していただきました。

（参加者の声の一部紹介します）

・知夫村の宝物である“子供たち”の教育の仕方について学びました。保小中の一貫した教育の大切さを感じました。地域の住人として、何か力が出せればと思います。

・保育所にも教育の指針があることや地域の活用のことなど、初めて知ることがとても多かったため、参考になりました。

今後、就学前の児童がどのような学習活動をしているのか、知っておくことも大切だと思いました。

地域が協力的であること、保育所、小中学校が一つであることは、知夫の強みです。目標を共有し、地域総がかりの教育の展開を進めていきたいと思えます。

（文責 派遣指導主事 福山）

【城が峰会の取り組み】

知夫村では急激な過疎化に伴い、近年、社会教育団体、社会教育施設の維持が困難となり、社会教育の衰退が顕著となっていました。子供を対象とした各種行事も少なくなり、地域の大人が子供の育ちに関わる機会が失われてきました。そこで、各方面より情報を集め、地域の大人が子供の育ちに関わる機会を増やしていく事を目的に城が峰会が結成され、六年前より活動しています。

スタッフは、約十名で構成されています。事業の企画・運営以外にも、実際の活動支援にあたるサポーターの募集、広報紙の発行による活動周知など、一緒に活動するメンバーを増やし、活動が広が

っていくよう取り組んでいます。

運営委員会を立ち上げて七年目の活動となり、これまでの取組と比べ、会議等の開催回数、事業実施数が増加し、活動が充実してきました。また、サポーターの募集や事業に地域住民がより多く関わる機会を増やす工夫などで、活動の広がりがみられました。

スタッフの活動意欲も高まり、スタッフからの提案による活動も充実してきました。書家になれ（習字教室、書き初め）、初めてのキャンプ（一泊二日のキャンプ、0円食堂、きもだめし等）バスケット大会の応援旗作り、どつき祭りでの活動報告、交流もちつき大会などを計画・実施、または予定しています。

これらの活動により、知夫村の子供たちにより多様な体験や経験を提供できたように思います。一方、活動のPRが充分ではなく、組織の知名度はまだ高くはありません。今後、広報紙の定期的な発行やサポーターの募集、また、保小中一貫教育との連携などを通して、さらに活動が広がるよう、地域を巻き込んだ活動

になるよう努めていく事が重要です。

（文責 派遣警務 広兼）

キャリア・パスポートについて

文部科学省は現代的な課題として「①社会の激しい変化

の中でも何が重要かを主体的に判断できること。②多様な人々と協働していくことができること。③問題解決のため、新たな価値を創造し、新たな問題の発見・解決につなげること。」の三つを挙げています。また、「何ができるようになるか」という観点で、各教科で子供達に身につけさせたい資質・能力を整理し、各教科の学びを明確にし、つなぎ、前述の課題解決を図ろうとしています。その学びを身につけ、生きる力を計画的に身につけさせる手立てとしてキャリア・パスポートの作成が義務付けられました。

押さえておきたい点をいくつか挙げます。①キャリア・パスポートは児童生徒にとって学習状況やキャリア形成を

見直し、振り返り、自己評価が行えるものにする。②

キャリア・パスポートは教師にとって、その記述をもとに対話的に関わり、系統的な指導に役立てるものにする。③キャリア・パスポート（名称は各校自由）は必ず作成し、次年度に持ち上がらないといけない。令和三年三〜四月に持ち上がり開始。学年間の引き継ぎは、原則教師間で行い、校種間の引き継ぎは、原則児童生徒を通じて行うこと。ただし小中学校間では要録の写しなどと同封して教師が引き継ぐことも可能。④キャリア・パスポートの管理は、原則学校で行うものとする。もし紛失した場合、子供との面談等で記憶をたどらせながら新たに作成する必要がある。

「EIOSしまね」に県内実践校のキャリア・パスポートが掲載されていますし、文部科学省の例が島根県教育用ポータルサイトにありますので参考にしてみてください。

（文責 新谷）